

大型連休中の登山者対応

◇実施日 4月29日(金)～5月8日(日)

◇参加者 別紙 対応状況参照

4月29日(金) 雨

今年の連休は雨でスタートした。新宮でも午後、かなりの雨量があり一日で120ミリを越えていた。4月下旬にしては気温が低い状態が続いていたので、奥駈道を歩く登山者の皆さんは苦労されたことだろう。そのためか、行仙宿や平治宿に宿泊予定だった人が持経宿に変更されたようで、持経宿の宿泊者数が若干多くなった。

4月30日(土) 晴

山彦のメンバー13人が行仙宿にビール、コーラなどを荷揚げ。水場整備、水汲み、補給路の改修を行う。本来は連休前に済ませておきたかったが、天候や他の事情で連休2日目になった。村吉さんは30日午後から4泊5日の予定で持経宿に入宿された。

5月1日(日) 雨

連休中の天気予報で、4月29日と5月1日だけが雨の予報だ。予報通り雨となったこの日、湯川君が知人の山田さんの奥駈縦走(本宮↓弥山)のサポートで行仙宿へ出向いた。

5月2日(月) 晴

5月2日は行仙宿に生熊さんが(一泊)、持経宿に豊嶋、樋口、前田のお三方が(二泊)で入宿し小屋番をすると申し出を頂いた。お昼前、11時過ぎ頃に前田さんから電話があり「池郷林道が崩土で通行できないため引き返してきた」とのことだった。

すでに持経宿入りしている村吉さんが閉じ込められてしまう、と心配が先に立った。今日は梶野君が行仙宿に行くことを思い出して電話を入れる。前鬼口手前を走行中とのことで、池郷林道の崩土を伝え現場の石人に向かってもらった。暫くして電話があり、池原から10分足らずの所で崩土があり、規模は大きくないが人力での除去は難しい、と報告があった。梶野君はその足で現場に行つて状況を伝え、和田君がすぐに対応してくれ、その日の夕方には通行可能になった。豊嶋グループは白谷林道経由で持経宿に入宿した。

朝は少しゆっくり出て行仙宿に向かった。晴天だが気温が低く、伯母峰の道路脇の温度計は12℃だった。前鬼橋の手前で沖崎さんから電話があり「池郷林道が崩土で通行できない。持経宿に向かった豊嶋さんから連絡があった」とのことだった。崩土の場所はゲートまでの村道部分らしいので、現場を確認に向かった。

池原から2.8kmの所で防護ネットの上部から2.3mの土砂が落ちて村道を塞いでいた。少し大きな岩もあり人力での撤去は難しい。幸い今日は連休の間の平日で、官公庁は休みではない。すぐに下北山村役場に向かい崩土の様子を伝えて対処をお願いする。その場で担当の課長が業者に連絡し、早ければ今日中に処置できるとのお答

えを頂いた。その旨を沖崎さんに連絡して行仙宿に向かった。R425のカナウナギトンネルの少し上で下ってきた村吉さんと出会った。池郷林道不通の情報は、林道を歩いてきた登山者から聞いて、白谷林道経由で降りてきたようだ。役場には連絡済みと伝えて別れた。



村道の崩土



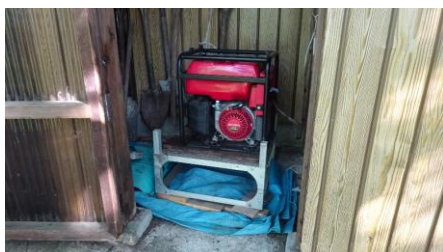
丸太を二つ割に



生熊さん作業中

補給路登山口に到着、生熊さんの軽トラが停まっている。昼食を済ませてモノレールで登る。モノレール終点で直径10cm位の丸太を半割にしてみた。少し時間はかかるがきれいに半分にすることが出来た。送電線下の補給路補修個所で、生熊さんが後片付けをしていた。小屋に戻る直前だった。行仙宿に到着して、児嶋さんからリクエストがあった発電機台の低床化を行う。事前にイメージしていた通りの加工ができ、発電機を元通りに置いてテストする。スターターを引くがやはり重くてエンジンスタートとすることが出来ない。生熊さんと交代で20分ほ

ど奮闘したが諦めた。



発電機台を低床化



本日の宿泊者



テントは3張

小屋に戻ってストーブの傍に注意書きを張り、火を入れて登山者を待った。午後3時前から続々と登山者が到着し、午後5時には13人が着いて内3名がテント泊だった。薄暗くなり始めた午後6時過ぎに下山した。
(記：梶野)

5月3日(火)

晴

沖崎、湯川の2名で持経宿に向かった。池郷林道はどこで崩土があったのか全く判らないほどきれいな状態だった。持経宿では豊嶋グループは平治宿に行ったために会うことが出来ず、村吉さんは通過者の対応に忙しい。児嶋さんがトラックで一人やってきて、2泊して台所の床や壁を工事するという。このままだと持経宿の小屋番が5名になるので、村吉さんは行仙宿に移動することになった。沖崎、湯川の2名は池郷

林道経由で行仙宿に向かい、行仙宿で小屋番をしていた生熊さんは村吉さんと交代して、午後4時半頃に3名で下山した。

5月4日（水） 晴

昨夜行仙宿で小屋番をした村吉さんは午後には下山し、この日の宿泊小屋番は居なかった。

持経宿では豊嶋グループの3人がお昼ごろに下山し、児嶋さんが一人残ったの小屋番となった。

5月5日（木） 晴

持経宿の児嶋さんは本日下山、工事は8割方完成したが、細かい仕上げが残っているらしく、連休後に再び工事するという事だった。5日以後は持経宿の小屋番が不在になった。



登山口で

シジュウカラ

水を汲み上げる

行仙宿は山本、志岐のお二人が5、6、7日の3日間小屋番を担

当されて、梶野君の車で3人が入宿。沖崎も差し入れを持って行仙宿に向かった。梶野君は夕方まで行仙宿に居ていったん帰宅した。気温が低いためかビールの売れ行きは芳しくないが、コーラは飛ぶように売れていた。

午前9時前に吉野口で山本、志岐の2名を拾って行仙宿に向かう。補給路登山口で沖崎さんと合流して4人で登りだす。行仙宿で昼食後沖崎さんは下山。通過する登山者が3名あった。中の一人が「鳥が落ちてますよ」と言うので窓の下を見るとシジュウカラが床に落ちて癡癡していた。窓に激しくぶつかって脳震盪を起こしているようなので、外に出して岩の上に置いた。震えてはいるが両足で立っているの、大丈夫だろうと思いきのままにしておいたが、いつの間にかいなくなっていた。



発電機室に照明

本日の宿泊者

テント2張

4月30日に50リッター位の水をくみ上げたが、ポリタンクはす

っかり空になっていたもので、3人で27リッターを担ぎ上げた。小屋に戻って発電機室に照明を増設した。気温が上昇したためか、先日まで始動が難しかった発電機は難無く始動し、山本さんは電気釜でお米を炊いた。午後4時前から登山者が到着し始める。2名が小屋泊、2名がテント泊だった。夕方になると寒さが増してきたのでストーブに火を入れる。テント泊の2名と15分ほど話をし、寒かったら小屋に避難するよう勧めて下山した。

(記：梶野)

5月6日(金)

晴

梶野君一人が行仙宿へ、小屋番の山本さん、志岐さんのお手伝いに向かう。

夕方から沖崎宅で天ぷらパーティー開催(14名参加)



コーラを持って行仙宿に着くと、新宮まで乗せて欲しいというドイツ人登山者が待っていた。獨協大学の講師で、日本に40年住んでいるという。昼食後、ドイツ人登山者と新宮に向かう。不動トンネル、宮井経由で新宮に向かったが、奥漣の道の駅でトイレ休憩をしていると国道を見慣れたトラックが通過した。通行量が少ないので奥漣道路でそのトラックに追いついた。バイクのコジマと書いてある。やはり児嶋さんだった。小森からの帰り道だったようで、新宮手前の信号待ちで車を降りて声をかけた。新宮駅の観光案内所でドイツ人を降ろして、湯川家に向かう。処分に困っていた大きな木の根っこをチェーンソーで小さく切った。捨てに行きたいが大きくて車に入らなかつたらしい。



登山口に着く

行仙宿小屋で

ドイツ人登山者と一緒に

行仙宿に向かう途中、大淀町付近で志岐さんから「コーラの残りが少ない」と連絡があり、吉野町のスーパーで10本調達した。

湯川邸で木を切る

天ぷらパーティー

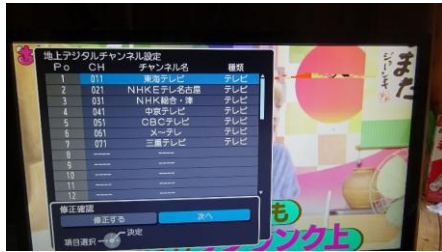
夕方5時半から天ぷらパーティー、メインになるはずのコシアブラは保存状態が悪く全部だめになったそうなので、ヨモギやアシタバなどがメインになった。

(記：梶野)

5月7日(土)

晴

行仙宿で3日間小屋番を務めてくださった山本さんと志岐さんは本日下山、梶野君の車で帰宅した。3日間ご苦労様でした。



登山者に対応中

地デジも受信可能に

本日の参加者

朝8時に新宮を出て、宮井から行仙宿に向かう。まだ時間も早いので小森の児嶋邸を探しに行った。ソーラーパネルが並んだ小森の集落は判ったが、六角の建物は発見できなかった。行仙宿に到着、昼食後、発電機が動くのでテレビをつけて地デジの受信を試みる。取説を読みながらなんとか設定が出来、三重県の放送が受信できるようになった。この間にも通過する登山者が数組あり、志岐さんが対応してくださった。
午後1時半、登山口に下山し帰宅した。

(記：梶野)

5月8日(日)

晴

今日が大型連休最終日、沖崎、湯川の2名で持経宿、平治宿に向かう。(池郷林道ピストン)

持経宿到着後、すぐに平治宿に向かう。平治宿では小屋内外の見回りチェックと清掃を行い、水場へ降りて水槽の状態や、段差の傷み具合を調べる。段差は最下部の岩場付近で早急に補修が必要な部分が見られた。

小屋に戻り志納箱を開ける。入れられた金額から、連休中に20人位の利用があったようだ。持経宿に引き返して、小屋内外を清掃し下山した。

連休中、各小屋の小屋番など色々ご協力を頂きお礼申し上げます。今年の連休はコロナの一段落感もあり、3つの小屋でおよそ150人の利用がありました。

「小屋番の方に親切にして頂き、大変お世話になりました」との声を何件か頂いています。

来年はコーラの在庫を増やすことと、なんとか小屋番の空白をなくすことが課題になりそうです。
(記：沖崎)